

## 苦境に陥った会社の再生を通して世の中に貢献する

SANDO TECH株式会社  
取締役会長

かわい つねじ  
**河井 恒治 氏(高校19期)**



1964年 東村山第四中学校卒業(第一期生)  
1967年 立川高校卒業  
1973年 慶応義塾大学卒業、住友重機械工業入社  
1997年 更生会社 株式会社植田歯車 事業管財人代理  
1999年 更生会社 株式会社精機工業所 事業管財人代理 兼務  
2002年 2社同時に更生会社から脱却、事業再編(統合)  
2003年 民事再生となった国内大手アパレルメーカー製造部門をボランティアで再建指導  
2005年 京都の特殊繊維・染色会社再建指導  
2006年 和歌山の機械メーカー SANDO TECH株式会社 再度トップとして再建指導

立高の皆さん、こんにちは。私は立高を卒業して58年経ちます。阪神淡路大震災で倒産した兵庫県の会社更生法適用会社2社再建に関わってから、現在に至るまで、直接再生指導した会社は7社、他に頼まれて間接指導した会社は複数社になります。直接指導した会社は全てリストラせず黒字化し再生しました。これらの成果は、全従業員、弁護士、会計士等の多くの人達に支えられて来たことによります。

### ■立高時代

立高は、中学時代からの目標で、合格した時は最上の喜びでした。自由で自主性に富んだ校風、生徒を一人の人間として接する先生方に触れて急に大人になった気がしました。思い出は、特に合唱祭と文化祭です。皆で一生懸命に取り組む姿は輝いていました。高校3年間の後半は、家庭に不幸が重なり、何で自分だけこうなるのかと絶望に近い時がありました。この期間は数年で解消しましたが、振り返ると、この時の苦しさは、今の自分(企業再建を通して社会に貢献するという使命)を形成したと考えています。

### ■卒業後

大学を卒業し、大手企業に就職しましたが、物足らなさを感じていました。阪神淡路大震災時は、東京の工場責任者をしていました。震災を機に倒産した丹波篠山の会社を再建することになりました。初めて事務所に乗り込んだ時、大勢の社員が希望を失い能面のように無表情で笑顔もなく目だけが動く感じで、この世の地獄を感じました。この時に、この人たちに笑顔を取り戻すため会社を蘇生することが私の社会的使命であると決意しました。その後、同じく震災を機に倒産した尼崎の会社も並行して再建することになりました。今に至るまで苦境に陥った会社を立て直すことが私の社会的使命としています。しかし年齢と体力から多くの再生指導者育成が、これからの社会的使命と考えています。

# 優

人の憂いを知る  
「優しい」「優れる」

最も愛する文字(使命、無私、優)の1つ

### ■立高の皆さんへ

高校時代3年間は人生の中では短いですが、自分自身の人格形成には重要な時期です。今を大切にしてください。そして、社会に目を向け貢献する気持ちを持ち続けてください。